

「危険：真理を失わないで！」

- 6:3 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと敬虔にかなう教えとに同意しない人がいるなら、
- 6:4 その人は高慢になっており、何一つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、そしり、悪意の疑りが生じ、
- 6:5 また、知性が腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人たちの間には、絶え間のない紛争が生じるのです。
- 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。
- 6:7 私たちは何一つこの世に持って来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。
- 6:8 衣食があれば、それで満足すべきです。
- 6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。
- 6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

はじめに

37年ほど前、私は英国南西部のエクセターという町で家を買いました。家の外壁は赤レンガ、内壁はセメントでできた丈夫な家でした。けれども、住宅ローンを組むために、構造に関する住宅診断を受けなければなりません。その家は、ひとつの問題を除いて、すべての審査項目をクリアしました。ひとつの問題とは、住宅診断士が屋根の支柱に小さなシバンムシがついている形跡を見つけたことです。自分たちではわかりませんが、住宅診断士はシバンムシの早期発見などできる審査の専門家です。診断士によると、木の中にいる虫にも効く殺虫剤をまくことでシバンムシを駆除できるので深刻な問題ではないということでした。殺虫剤は駆除だけでなく、防虫効果が約10年間あるとのことでした。それで駆除作業をしてもらい、ローン審査も通過して家を買いました。その家はバイブル・カレッジへ行くことになり売却しました。住宅ローンを組む必要がなければ、住宅診断を受ける必要もなかったでしょうが、そのせいで徐々に屋根の支柱がシバンムシに食われていったでしょう。数年もすれば、屋根そのものが落ちていたかもしれません。そうなったらたいへんです。もうひとつ英国の家で深刻な問題は「蒸れ腐れ」です。蒸れ腐れを起こしても、最初はまったく気づきませんが、家全体に広がり、最終的には建物全体をダメにしてしまいます。英国で家を買おうと思ったら、とくに古い家の場合はどうすればよいでしょう。まず、住宅全体の構造を診断してもらうことです。そして、シバンムシや蒸れ腐れに対処するため、定期的にチェックするのも大切です。なぜこのような話をしているかというと、私たちの信仰生活も英国の家と似ているからです。私たちは、聖書の教えについて誤解していないか定期的に信仰のあり方を確認する必要があります。時代の風潮が、私たちの心から神のみことばの真理を徐々にむしばむことがあります。気付かないほど少しずつ浸食が進むのです。要するに、気付かないうちに少しずつ私たち自身がイエス・キリストのみことばに賛同しなくなっていくということです。今日の個所で、パウロはもともとこの手紙を書いた理由と主題に話を戻します。

この手紙を書いたおもな理由は、教会にいる偽教師の問題に対処するためでした。このような偽教師たちが神のみことばの真理をなし崩しにし、その結果、教会で間違っただけの行為をする人たちが出てきたことに言及するためでもありました。

今日の箇所には主題がふたつあります。

1. イエス・キリストのみことばを否定する。 (6 : 3-5)
2. 金銭を愛することを許容する。 (6 : 6-10)

1. イエス・キリストのみことばを否定する。 (6 : 3-5)

a) 偽りの教えの内容。 (3 節、5 節前半)

パウロは、ふたつの方法で偽りの教えを確認します。まず、その教えが否定する内容です。これは 3 節に記されています。

このような偽りの教えは、イエスのみことばとその教えを否定します。イエスの教えは敬虔な生き方を奨励します。

次に、偽りの教えを支持した場合に起こることについて記されています。

5 節には、「敬虔を利得の手段と考えている人たち」とあります。

偽教師たちの考え方によって、人々は敬虔な生き方をすれば金銭的な得があるという結論に至ったわけです。

つまり、偽教師たちは金銭的なご利益のために宗教を信奉していたのです。

偽教師たちはキリストの教えと心からの敬虔な行いから離れてしまっていました。

間違っただけの考えを持った彼らは、自分たちの新たなやり方が金銭的な利得に導いてくれると考えるようになりました。

彼らは、イエス・キリストよりも自分たちのほうが物事を悟っていると思ったのですから驚きです。

けれども、現代のクリスチャンにも同じことが起こります。

今日の箇所は、イエス・キリストのみことばを取り去ると、すべての意義が失われ、何の役にも立たないと教えます。

それはまさに、すべての偽りの教えに当てはまります。

偽りの教えは、神が私たちに聞かせたいと思っておられる真理を人々から奪います。

日本では、たいていの人は誠実で、路上で強盗に遭う危険性はそれほど高くありません。

一方、英国やヨーロッパ、米国の一部の地域ではそうではありません。

ヨーロッパの多くの都市では、スリ被害に対する注意喚起がなされます。

被害に遭ったことも気づかないうちに財布を奪うことのできるプロの窃盗集団がいます。

偽教師たちは、私たちの気づかない間に真理を奪い、教会の中で活動できるのです。

お金を巻き上げる手口としては、たいてい素晴らしい大義を掲げ、金銭的な支援をすれば神からの祝福がいただけると約束します。

残念ながら、神からお金を得られるかもしれないという期待をもって献金してしまうのは貧しい人々であることがあります。

それで偽教師はよく、アフリカやアジアの貧しい地域を好んでターゲットにするのです。ずいぶん昔、私がセールスマンだったころ、商品売るのに役立つテクニックを習いました。

ある会社では、私はトップセールスマンに数えられ、営業成績で 1 位になりました。

そのときの報酬は、夫婦で行く豪華パリ週末旅行でした。

このような話をしたのには理由があります。

私がロンドンで牧師だったころ、ロンドンのある教会が主催する大規模な伝道向けコースの立ち上げ時に招待されました。

このコースは後に世界的に有名になりました。

私はその訓練コースに参加し、以前学んだセールステクニックによく似た内容だということに徐々に気づき始めました。

訓練コースが終わるころには、偽りの教えがあるか福音の提示の仕方が間違っているかのどちらかであることは明らかだと感じました。

要するに、人間の思考や五感にとって何もかももっともらしかったにもかかわらず、そこに聖書的真理がなかったということです。

教会内の偽教師には本当に気を付けなければなりません。

偽教師の言うことを聞いて受け入れることで、神のみことばの真理を奪われないように注意してください。

偽りの教えから身を守る唯一の方法は、神のみことばを自分で読んで学ぶことです。また、学ぶときに使う注解書や参考にする教えは、聖書を正しく釈義する敬虔な人によるものでなくてはなりません。

多くの聖書教師には、特定の教理が正しいことを主張するという目論見があります。そういう人は、聖書全体の教えを用いないので、神のみことばが実際に教えている正しい信念にたどり着きません。また、違った視点を紹介しなかったり、ある教理に関して特定の立場を取る理由を説明しなかったりします。

そのような聖書教師は、自分の意見を押し付けようとしているだけです。

聖書の注解書を購入する場合は、まず後ろについている参考書目や著書目録を確認しましょう。

これは、その聖書教師が読んだ書物や著書の中で引用した書物のリストです。

著者が取り上げている主題について書かれた良質の書物がそのリストにあまり挙げられていないなら、その本を買ってはけません。

私は世界一の聖書教師ではありませんが、世界で指折りの素晴らしい聖書教師たちが書いた本を読んで参考にしています。

正しい聖書釈義に倣えば、偽りの教えへと誘い込まれる危険性は低いでしょう。

また、聖書を講解説教のかたちで計画的に教える教会に毎週通う必要があります。

b) 偽りの教えがもたらす結果 (4-5 節)

パウロは、4-5 節で偽りの教えがもたらす結果をいくつか挙げています。

おもな結果はふたつありますが、どちらも会衆の振舞いに影響を与える偽教師の振舞いです。

それはまるで感染性のウィルスのように教会内にまたたく間に広がりました。

偽教師が教会の指導者の中にいると、その偽りの教えを受け入れる教会員がすぐに出てきます。

4 節には、イエスのみことばを受け入れないと、そこからことばの争いが起こるとあります。これは注目すべき内容です。

イエスのみことばに賛同しないと、周囲の人とも仲たがいするようになるのです。

そして、イエスの教えについて各々違った意見を持つようになります。

そうなる、イエスの教えを守る人たちと口論になるでしょう。

4 節は、違った意見がねたみ、争い、そしり、悪意の疑りを生むと語ります。

テモテ第一 6:4

6:4 その人は高慢になっており、何一つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっているのです。そこから、ねたみ、争い、そしり、悪意の疑りが生じ、

たとえば、あなたは広島に行こうとしていたとします。けれども、新大阪から反対方向の新幹線に乗ってしまいました。そうすると東京に向かうことになるので行きたい場所には到着しません。

偽教師とはそのようなものです。

彼らは偽りの教えによって人々を間違った方向に連れていき、ついには不敬虔なふるまいをするようにまでなってしまいます。

正しい聖書の教えは、神の聖霊の助けを得て敬虔に生きるよう促してくれるはずで

ですから、私たちはクリスチャン生活の中で靈的に正しい方向に向かって歩んでいることを確認しましょう。そして、間違った方向だと気づいたら、回れ右で方向転換し、正しい方向へと歩み始めましょう。

聖書は悔い改めを呼びかけます。クリスチャンとして生きる人生は間違いやすいものです。悪魔はとても巧妙で魅力のある手口を使います。そして、神のみことばの真理を私たちから奪おうとじわじわと近づいて働きます。

実際、それがしばらく続くと私たちは悪魔のうそを鵜呑みにしてしまいます。ですから、自分の考え方が誤っていることを認めて神のみことばにあるイエスの教えへと立ち返るには謙虚になって勇気を出す必要があります。

では、イエスのみことばを否定することについて書かれた 3-5 節の学びを終え、6-10 節の金銭愛の許容について話しましょう。

2. 金銭を愛することを許容する。(6 : 6-10)

パウロは次に、偽教師の考え方について話を展開します。その教えは、偽教師とそれについていく人たちの歩む方向と道を露わにします。パウロは、彼らの行き着く先を指摘します。この個所の構成は、ふたつの方向と終着点の対比です。

正しい終着点とは、満ち足りる心を伴う敬虔で、大きな利益を受けます。

一方、間違った方向とは金銭を愛することで、諸悪の根源です。

では、これらふたつの道についてもう少し詳しく見てみましょう。

a) 満ち足りる心の道 (6-8 節)

パウロはこの短い個所の中で、満ち足りる心について 2 度言及しています。(6-8 節) ここから、パウロがどこに焦点を置き、何を拠り所にして物事を考えるのかがわかります。パウロは、偽教師たちが金銭的な利得を求めていると指摘しました。そのうえで、金銭的な報いが必ずしもなくても、敬虔に暮らすだけで多くを得られるということを教会員たちに教えようとした。

ピリピ 4 : 10-13

4:10 私のことを心配してくれるあなたがたの心が、このたびついによみがえって来たことを、私は主にあって非常に喜びました。あなたがたは心にかけてはいたのですが、機会がなかったのです。

4:11 乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。

4:12 私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

4:13 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

貧富の問題については、満ち足りる心を伴う敬虔な態度が大きな利益に通じるという結論に至ります。

では、そのような考え方や態度はどうすれば身に付けられるのでしょうか。

パウロは、7 節でその問いに答えます。それは、人生について永遠という視野を持つことです。

満ち足りる心の道は常に、「今」ではなく「永遠」を中心に考えます。

私たちはこの世に何も持たずに生まれてきたし、死ぬときも何も持っていくことができない、とあります。

敬虔さがもたらす利益は、突き詰めると永遠と関連しています。そして、今現在所有できる額ではなく、私たち信徒がいずれ受ける報いに関連しています。

8 節でパウロは、衣食という基本的な物があれば必要は十分満たされていると語ります。もちろん、神はそれ以上の物を与えてくださるかもしれませんが、生活の基本的なニーズが満たされていればそれだけで満足するべきです。

私たちは最低限の生活を守れるだけで満足でしょうか。それとももっと欲しいと思ってしまいませんか。これは私たちがそれぞれ自問すべきことです。偽教師は、永遠に受ける後の祝福よりも、この世の物質的な富に執着するようになってしまいました。

b) 食欲の道 (9-10 節)

9-10 節には、満ち足りる心とは正反対の道について記されています。

満ち足りる心は、後に大きな霊的利益をもたらしますが、偽りの教えから来る食欲は危険で大きな悲しみをもたらす結果へと導きます。

では、その内容を見ていきましょう。

パウロはまず、金持ちになりたがる人について語ります。

そのような人たちは、今よりもっと多くを手に入れたいと望みます。現状では満足しません。

富と豊かさに飢えているのです。

パウロは、このような考え方は人をわなへと陥らせると教えます。

金持ちになりたいという思いを持つと、わなにかかった動物のようで、その習慣から自分で抜け出すことができません。釣られた魚のように釣針がひっかかった状態です。

一旦お金を手に入れて欲望を満たしても、もっとお金持ちになりたいという欲望がさらに増すだけです。

ここで「なりたがる」と訳された欲望を指すギリシャ語の単語には、非常に強い意味合いがあります。

欲望が定着していて、思考の中に完全に受け入れられた状態を指します。

それは、変えることのできる感情的な決断ではありません。「陥ります」という現在形から、誘惑やわなに継続的に陥る状態がうかがえます。

食欲な人は、もっともっとという果てしない欲望に常に捕えられています。

残念ながら、そのような人たちの行き着く先を聖書は破滅、または地獄と呼びます。これは、創造主なる神から永遠に引き離され、永遠に罰せられることです。

次に、パウロは 10 節で同じことを違った側面から教えます。

この個所でパウロは、金銭を愛することが諸悪の根源だと言います。

ギリシャ語は文字通り、「銀」への愛という意味です。

聖書は、神と金との両方に仕えることはできないと教えます。

私たちは、どちらについていくか決めなくてはなりません。

エペソの偽教師たちは、お金についていく道を勧めていました。

現在でも、同じように教える偽教師がいます。

「繁栄の神学」や「繁栄の福音」と呼ばれ、米国で非常に大きな流れとなりましたが、先ほども話したように、このような偽教師たちの多くは富を得るために貧しい国に行きます。人々は、お金持ちになれると期待しますが、お金持ちになれるのは偽教師だけです。

チャールズ・スタッドという男性は、19 世紀の有名なクリケット選手でした。

彼はイエス・キリストを信じると、宣教師になると決心しました。

宣教地に赴く前に、彼は親から受け継いだ遺産をすべてささげることにしました。

それは当時では大金でした。

スタッドには婚約者がいたので、その婚約者に結婚資金として遺産のいくらかを渡すことにしました。ところが婚約者はそのお金を受け取ってすぐに献金しました。

多くのキリスト教団体が献金を受け取りました。

シカゴにあるムーディ聖書学院の設立にも寄与しました。

そしてスタッドは妻とともに宣教師としてアフリカに渡りました。

神はふたりの必要をじゅうぶんに満たしてくださり、彼らの生き方は世界福音宣教団

(WEC) と呼ばれる宣教団体によって受け継がれています。

まとめと適用

今日は、学びの中で適用についても語ってきましたので、ここでは手短かに語ります。

1. 日本では、毎年健康診断があります。

健康診断では、体に悪いところがないかどうか調べてくれます。そして、何か見つければ、病気の治療について、または生活習慣を変えないとかかるであろう病気の予防法などについて教えてくれます。

私たちも、毎年霊性の健康診断をしてはどうでしょう。

どうやって診断すればよいのでしょうか。

手始めに、イエスの教えについて自分がどのように考えているか吟味してみることができます。

福音書に記されているイエスの教えをすべて読んでみましょう。

また、創世記 1-3 章に記されている内容のとらえ方について考えてみましょう。

またヨハネの福音書とローマ人への手紙を読んで、そのとらえ方についても考えてみましょう。

テモテへの手紙第一の学びはほぼ終了しました。この教えは自分の考え方やとらえ方について何か課題を与えてくれましたか。

問題を発見することと解決することとは違います。

問題が見つかったら、それについて行動を起こさなくてはなりません。

神の助けによって、私たちが自分の霊性を定期的に診断することができますように。

信仰生活で間違った方向に行ってしまうためです。

聖書の理解には深い洞察力が必要です。

2. 人生の多くをかけてこの世の物を求めることは、私たちの信仰生活や霊性にとって有害です。

「物」は、お金の場合もあれば、ゴルフなどのスポーツである場合もあります。

何であれ、それにとらわれているなら、手放しましょう。

うまく人生のバランスを取ることを学びましょう。今、神が望まれる人や物事のために自分の時間を使いましょう。年齢や環境など、その時によって時間を使うべき対象は変わっていくでしょう。けれども、神は決して変わらないお方です。私たちがいくつになってもどんな状況でも、神のみこころは常に私たちにとっての最善です。